

令和元年度第2回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	令和元年7月22日(月)10時00分～12時15分	
会 場	市役所第2庁舎 会議室5・6	
出 席 者	委員 ※50音順	市(事務局)
	委員 吾田 富士子 委員 石岡 くに子 委員 磯貝 孝 委員 板垣 愛 委員 大関 恵子 委員 大前 江津美 委員 小川 真智子 委員 兼平 尚子 委員 河岸 由里子 委員 斉藤 創 委員 三溝 昌宏 委員 西 博康 委員 松澤 菜緒 委員 三浦 朋美 委員 村田 勢津子	こども福祉部長 上野 美晴 こども福祉部次長 島津 一久 こども政策課長 久保田 健司 こども政策係長 井島 秀司 こども政策係主任 小島 優子 こども政策係主事 菊池 航 給付係長 石井 彰子 市(関係部署) こども家庭課長 藤木 健一郎 子育て総合支援センター長 磯部 由起子 主幹(児童館等運営調整担当) 米山 伸哉 こども療育課長 松田 和也 保健福祉部次長(保健担当)兼母子保健課長 山谷 奈奈子 主幹(産前産後ケア担当) 渡辺 幸子 教育委員会企画総務課長 伊藤 樹美
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍 聴 者 数	2人(千歳民報記者、北海道新聞記者)	

1 開会

委員数16人中15名の出席につき、会議が定足数(委員の半数以上の出席)を満たしていることを確認。

## 2 議事等

### (1) 千歳市子ども・子育て会議の運営について

#### ①会長・副会長の選任

【委員から一任されたため、事務局で会長及び副会長を選任】

会長により議事を進行。

#### ②千歳市子ども・子育て会議の役割

【こども政策課長から、資料2について説明】

(会長)

ありがとうございました。何かご質問はありますか。無ければ、議事を進めます。

### (2) 千歳市子ども・子育て支援事業計画について

#### ①千歳市子ども・子育て支援事業計画の概要について

【こども政策係長から、第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画、千歳市子ども・子育て支援アンケート調査の結果報告書及び資料3について説明】

(会長)

ありがとうございました。何かご質問はありますか。

(A 委員)

千歳市は市外からの転入者がすごく多く、ママたちの集まりの中で、おすすめのお店はどこかなど、情報共有をしている場面が見られ、子育てがこんなに難しいものであるのかと感じています。

(会長)

転勤の方が多いので、それに備えてお母さんたちでそういう場を作り出していつているのだと思います。一人でいらっしゃる方たちにどのように声を届けていかなければいけないかということを本会議の場で検討していければと思います。

(こども政策課長)

なお、次期計画の策定にあたってはこちらで素案を作成し、皆様に確認いただいた後にご意見いただき、それを踏まえて計画を策定していくこととなります。

(B 委員)

次の会議が始まる前に、事前に資料をいただくことはできますか。

(こども政策課長)

次回以降は、会議前に事前に資料を送付いたします。

(C 委員)

一期の計画の評価と検証についてですが、計画の策定に携わっていない中で評価するかたちでもよろしいのでしょうか。

(こども政策係長)

外部の評価としてご意見をいただきたいところではありますが、事業数が多いため、回答がしやすいよう事務局側で評価シートを作成し配布いたしますので、そちらにご回答いただければと思います。

(会長)

千歳市のサービスの数の多さは既に評価されていますが、中身についての検証を今後進めていく必要があると感じています。

## ② “子育てするなら、千歳市” の政策について

【こども政策係長から、“子育てするなら、千歳市” 政策冊子（第 11 版）について説明】

(会長)

何かご質問はございますか。無ければ、議事を進めます。

## ③教育・保育施設等の現状と今後の方針について

【こども政策係長から、資料 4-1～4-3 について説明】

(会長)

ありがとうございました。M 字曲線という言葉については、死語になりつつあります。千歳市は転勤の方が多く、お母さんが仕事を辞めて転入してきているため、M 字曲線になってしまっている傾向があるかと思えます。

また、千歳市は待機児童を出さないために保育定員を拡大しておりますが、保育士の確保についての懸念があり、今後はその問題について取り組んでいかなければいけないですね。

(D 委員)

保育料の独自減免とは、どのような内容ですか。

(こども政策課長)

千歳市では平成 29 年度から、住民税非課税世帯は保育料を無償化しております。また、国基準の保育料の限度額よりも、千歳市として独自に軽減し、保護者の方が利用しやすい料金として設定しております。また、独自減免により、利用者の増加につながっていると考えております。

なお、女性の就業率の増加等に伴い、当初計画よりも利用者数が増加する見込みであったため、平成 29 年度に中間見直しを行った際に、平成 30 年度、平成 31 年度にかけて 200 名の保育定員の更なる拡大を行っております。

(B 委員)

M 字曲線については、市の方針として M 字にならないようにしようとしているということでしょうか。

(こども政策課長)

国の施策として女性の就業率を 80%まで引き上げようとしており、その引き上げのため

に M 字を解消することで目的が達成できると考えており、千歳市でもその考えに基づき動いております。

(会長)

M 字曲線であることは、職場に復帰しにくい環境が作り出されていることを意味します。M 字の解消は、お母さんが自由な選択をすることが可能な環境になることを意味しており、母親をなるべく働かせようとする環境にしようとしているというものではありません。

(B 委員)

利用者が増えたというのは、児童数が増えたというよりは、幼稚園よりも認定こども園を選択する保護者が増えたということですか。

(こども政策課長)

その理由もありますし、働いてみようかなと思う環境づくりをしていることも理由の一つと考えられます。

(E 委員)

保育所の希望理由が、仕事だけでなく虐待や子育てへの不安感など、多岐にわたってきています。働く側がどのような対応をするべきかを考えて受け入れる必要があると考えており、そのためには他機関との連携の必要性も考えておりますが、千歳市に養成校を作るような計画はないのでしょうか。

(会長)

保育学科は、現在厳しい状況にあります。親に反対されて保育士になることを諦める生徒が増えていたり、東京に就職する生徒も多い中、千歳市に養成校を作ったとして、何人の生徒が入るか、また何人が千歳市に戻ってくるのかという問題があります。保育士は素晴らしい職業であり、その職に対し給料がしっかり支給されるということを示すことが大事になってきます。

(こども政策課長)

今後も働いていきたいという環境を作っていくことの重要性は認識しておりますので、委員からご意見いただき、次期計画に反映させていきたいと思っております。

(C 委員)

札幌市では学費に対する助成制度があり、その助成を受けるには札幌市で勤務することが条件となっているようです。千歳市にはそのような助成制度はありますか。

養成校の生徒の話を見ると、保育士免許か幼稚園免許のどちらかしか取得していない人がおり、両方取るには受講料が高くなってしまおうという話を聞いています。

(こども福祉部長)

市としては、M 字の底上げを図るために保育定員を拡大しているのではなく、子育てをしながら働くことを望む母親の要望に応えるための手段として保育定員の拡大を図っております。また、そのためには保育士が当然必要となってきます。千歳市では、人材バンクの開設や、就職セミナーの実施により、毎年 10 名前後の保育士が就職につながっています。

また、助成制度は実施しておりませんが、各施設の自助努力により、これまで保育士の不足により開園ができないという状況には至っていません。しかし同時に、この状況もあと何年続くかという思いもあります。

保育士不足の解消に向けた取り組みは多岐に渡りますが、その中でも何が効果的かを見極め選択していく必要があります、そのためには委員のご意見が必要となってきますので、ぜひお知恵をいただきたいです。

(B 委員)

私自身保育士免許を持っており、私のまわりにも免許を持っている人が4、5人います。持っているけど働いていない人たちが、研修制度等で働きやすい環境を提供してもらえれば、保育士も増えるのではないのでしょうか。

(こども政策課長)

復帰するためのセミナーの開催なども選択肢の一つになるのではないかと考えています。

(F 委員)

保育士が離職した後の追跡調査はどの程度行っているのでしょうか。

(会長)

連絡をくれる人とは常に情報を共有できますが、連絡を取りたくない人もいるため、慎重にならざるを得ない状況ではあります。

(D 委員)

幼稚園教諭については、求人をかけても思うように集まりません。無償化を制度設計した文科省の人の話によると、今後は教育・保育の質の向上が目標になると話を聞きましたが、人手不足も大きな問題です。

(F 委員)

札幌市に夜の時間帯の保育園があり、給料が高いという理由でそこで働いている知り合いの保育士がいますが、環境が悪いようで辞める人も多く、残った人が大変になっているようで、結局別の保育園を検討しているようです。そのように浮遊している有資格者がいると思うので、民間との連携によって、人が集まりコミュニケーションが取れるような場を作ることができれば、すぐに紹介もできたりするのではないのでしょうか。

(D 委員)

今は紹介会社が、登録されている保育士を園に斡旋し、園が紹介料を払えば保育士が雇えるという時代です。今朝も紹介会社から紹介のファックスが来ていました。

(G 委員)

紹介会社の人が付き添いで一緒に園に見学に来たり、進捗状況の確認をしたりと手厚くしているようです。

(B 委員)

子育ての大変さから保育所を利用したいという保護者の声を聴きます。M字の下の部分の人たちが、本当に子育てをしやすい環境を作ることが大切なのではないかと思えます。

子育ての仕方がわからないで子育てをしている世帯が増えているように感じます。市としてはそこに対する支援をもっと入れていった方がよいと思います。

(こども福祉部長)

現在の支援事業計画や政策冊子でも紹介している通り、市では 138 事業を実施しています。子育てから逃げるために保育所を利用するといったことがないように、子育ての不安や孤立感の軽減を目的とする事業を多く実施しております。就労者が増えてきている中で、平日に開催するような事業が多いため、今後は働く母親でも参加しやすいような設定をしていくことも大切であると考えています。

### 3 閉会